

三井物産の森 × ECO action!

環境出前授業

～身近な「木づかい」を感じよう～ レポート

子どもたちが環境や地球の未来について考える機会を提供する、北海道エコ・アクションの「環境出前授業」。2月28日(土)に札幌市教育文化会館で行われた授業では、全国に社有林を保有し森を守り、育てている三井物産の担当者から「森」のお話と、木で楽器を手づくりする伊藤英円さんのお話と演奏を聴きました。木を「育てる」「使う」というふたつの視点から、私たちの生活や文化について子どもたちはどのように考えたのでしょうか?

小学生と保護者の78人が参加!



美しい音色を奏でてくれました



三井物産の森

三井物産は林業を行いながら長い年月をかけて森を守り、育てています。保有する社有林は全国74か所・総面積約4万4千ヘクタール、その8割は北海道にあります。これらの森は林業として適切に管理するとともに、森林環境プログラムや社会貢献活動など多面的な活用も行っています。

1時間目

三井物産 『森のめぐみと林業』

1時間目は三井物産の斉藤江美さんと、森の管理をする三井物産フォレストの細島彩起子さんが先生。木材や紙、燃料、水や食糧、動物たちのすみか、さらにはCO₂の吸収など、さまざまな恵みをもたらしてくれる森。日本は世界有数の森林大国ですが、手入れを怠れば森はどんどん荒れてしまいます。苗木を植え、下刈りと根枝払いで成長を促し、適正な間伐を行う。そして大きく育った木を育て、伐採してさまざまな形で暮らしに役立てる。林業は50～60年にも及ぶサイクルを続ける息の長い仕事ですが、そのおかげで豊かな森が未来へ受け継がれていくのです。

子どもたちは高性能林業機械「ハーベスタ」の動画を見たり、チェーンソーのおもちゃに触ったりしながら林業に興味を持った様子。適切な森林管理を証明する「FSC認証」マークが表示された製品を選ぶことが森を守り、林業を応援することにもつながると知り、これからは木材製品への見方がちっぽち変わりそうです。



三井物産 環境・社会貢献部 斉藤 江美さん



三井物産フォレスト 帯広山林事務所 細島 彩起子さん



2時間目

ライア奏者 伊藤英円さんの特別講演 『手づくりの楽器とその音色』

美瑛市で楽器工房を営む伊藤英円さんが2時間目の先生。英円さんの作る弦楽器「ライア」の本体は北海道産のエゾイタヤ。木の細胞をできるだけ潰さない乾燥にこだわっている道内の製材会社と心通わせおつき合っているそうです。森が育み、職人さんが丁寧に製材した木は、英円さんの手によって楽器という新たな命が吹き込まれていきます。森と人の共同作業から生まれるライアは柔らかな形でやさしく手になじみ、繊細で透明な音色は森に降り注ぐ木もれ日のよう。英円さんのライア演奏を楽しんだあと、子どもたちは別名「親指ピアノ」と呼ばれる木の楽器「カリンバ」と楽器の端材を使って道産の穀物を入れた「マラカ」でセッションに挑戦。シンプルリズムが重なり合って生まれる不思議な音のうわいは、楽器に宿る森のめぐみと、楽器を通して人とつながる感動を子どもたちの胸に刻んだに違いありません。



英円 伊藤 英円さん
1962年創生生まれ。飲食店経営、デザイナーを経てライア作家に転身。2007年に美瑛市に工房を構える。制作したライアの演奏者であり、演奏会・教室・講座等も開催。4児の父。



▲ライア
ライアとは、琴(たごこ)、元々は弦楽器の類。手元で弾き、膝かきらめく音色を特徴としている。



▲カリンバ
金魚骨を親指で弾いて演奏するアフリカの民俗楽器。「ハンドオルゴール」「サムピアノ」とも呼ばれる。



▲マラカ
木の実など中空の球の中に種子や小石を入れた中南米系の楽器。複数形で「マラカス」と呼ばれる。



参加してくれた方のコメント



●札幌市北区 金子 尚世さん
楽器を楽しむことで森とつながってすてきですね。木製品を使う意味を考えるきっかけになればと思います。
【紅葉くん(小学4年)】
抽選でカリンバが当たりました!森の中で弾いているみたいな音が気に入りました。



●札幌市西区 北川 真太郎さん
林業の様子を具体的に知ることができ、親子ともども森林保護を考えるきっかけになりました。
【白葉くん(小学5年)】
林業で余った木材もベレットになると知り、切った木をムダなく使う工夫がすごいと思いました。
【太一くん(小学3年)】
木の楽器はワルツルの手触りが気持ちよかったです。林業は時間がかかるので大変な仕事だと思いました。



●札幌市東区 三橋 恵子さん
音色にひかれて顔に名付けた「ライア」を初めて弾いて大感激。楽器に込められた森への思いを感じました。
【いあちゃん(小学5年)】
トンドの調査でよく森に行きます。木の楽器を弾くと体に響いて、木は生き物なんだと思いました。

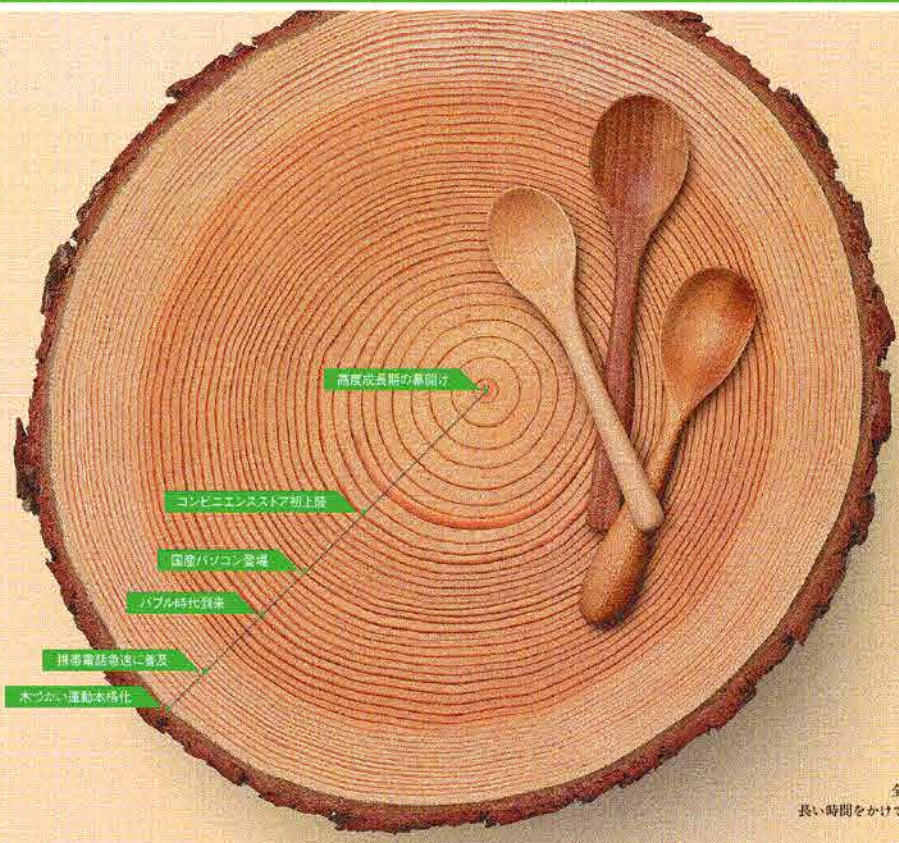
今できること、「考える」から「行動する」へ! 詳細はホームページへ <http://adv.hokkaido-np.co.jp/eco/> 北海道エコ・アクション 企画制作/北海道新聞社広告局

おじいさんたちが植えた木を、わたしたちが植える木を、みらいの孫たちが使う。

日本の暮らしが、めまぐるしく変化したこの50年。いま、あらためて、木のぬくもりを思い返し、生活に取り入れて、自然を思いやる「木づかい」の毎日へ。何十年も前に植えられた木を、たいせつに使う。そして、何十年後かのために、あたらしく植える。それは、森林を代産させ、健康に保ち、みどり豊かな国を受け継ぐことに、つながります。

三井物産は、次世代のことも考えながら、「植える」「育てる」「切る・使う」が循環する、持続可能な木づくりに取り組んでいます。

木のやすらぎと、森のめぐみを、次の世代へ。



高度成長期の頃に植えられたカラマツの切り株です。
三井物産の森
全国70か所以上、約44,000ha。長い時間をかけて、大切に守り育てています。